

平成26年(2014年)

8/15

毎月1日・15日発行

No.1227

市報 人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山

ひがしむらやま

人口と世帯 (平成26年8月1日現在)

男:74,488人 女:77,151人

人口:151,639人 世帯数:70,431



発行 東村山市

編集 経営政策部広報広聴課

電話 042-393-5111 (代表)

ホームページ <http://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/>

住所 〒189-8501 東村山市本町1-2-3

FAX 042-393-6846 (代表)

携帯電話用 <http://mobile.city.higashimurayama.lg.jp/>



市制施行50周年記念

第15回「大好き東村山写真コンクール」入賞作品の決定

今回は市制施行50周年を記念し、市制施行の昭和39年から現在までに撮影した作品を、5月から7月にかけて募集しました。この中から、最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作5点、市長特別賞1点を決定しましたので紹介します。たくさんのご応募、ありがとうございました。

なお、10月26日(日)に市民スポーツセンターで開催される市制施行50周年記念式典会場にて、歴代の写真コンクール最優秀賞・優秀賞作品を展示します。

問 広報広聴課

「佳作」および「市長特別賞」は6面に掲載しています。



最優秀賞

「晴れ間に」(北山公園)
木村隆成さん(恩多町)

優秀賞

「菖蒲まつり」(北山公園菖蒲苑)
浅利多見夫さん(本町)



「東村山浄水場の春」(東村山浄水場)
横谷民夫さん(秋津町)



「35キロ先の灯火」(多摩湖堤防より)
利重勇二さん(諏訪町)



講評

最優秀賞に選ばれた「晴れ間に」は、個性的なアングルが多くの審査員の目を引きました。自分なりの視点を持つことは大切です。画面下部をもう少し整理して青空の比重を多くすると、バランスが良くなり、さらに洗練された表現になるでしょう。

「東村山浄水場の春」は、画面を斜めに分割する空と桜の入れ方が絶妙です。「菖蒲まつり」は、爽やかな空気感が好印象です。「35キロ先の灯火」は、さまざまな色温度の光源の色合いの妙が美しく撮られています。

審査員 写真家 宇井真紀子

最優秀賞作品の「晴れ間に」は手前に並んだ白い菖蒲を雲に見立て、その間に新たに東村山のシンボルとなった駅前のマンションを写した大胆な構図が目を引きました。ほかの入賞作品も、タイトルや視点など、撮影コンセプトの面白いものが今回は多かったです。

いっぽう審査の際には、撮影者の狙いが作品に表現しきれていないような、惜しい応募作も見受けられました。撮影したいと思う場面に出会ったら、頭に浮かんだ構図から少しずつずらしたものを何枚か撮ってみるのも、理想の一枚へ近づく一案です。

審査員 写真家 當麻綾子